

# 長野県革新懇ニュース

2023年6月号  
発行日6月10日  
会費 2,000円  
購読料 3,000円(送料込)  
振替 00510-3-15971

287

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会  
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕  
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内  
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 花岡邦明さんインタビュー
- 2面 1面続き、「近現代信州の歴史回廊」関秀雄さん
- 3面 「基地攻撃能力の保有は何をもたらすか」学習会  
長野反核医療者の会活動報告、読者の声、漢字パズル
- 4面 雨よ降れ「恣」への抵抗 窪島誠一郎さん  
青い目の人形② 北原高子さん  
映画評論『妖怪の孫』 内山到さん

長野県革新懇

検索



1951年岡谷市生まれ。信州大学教育学部卒業。長野県内で小学校教諭、障害児学校教諭を務める。2003～2009年長野県教職員組合執行委員長。2013～2019年長野医療生協理事長。2009年2月～現職。現在、長野県革新懇常任世話人、長野市憲法9条の会代表、信州市民連合共同代表。

## 平和を守るため 改めて戦争遺跡を活かそう

花岡 邦明さん

(NPO法人松代大本営平和祈念館理事長)

### 活動が評価された 第30回信毎受賞

信濃毎日新聞は6月2日、第30回信毎賞に「NPO法人松代大本営平和祈念館」が選ばれたことを報じました。私たちの長年の粘り強い活動が伝統ある地方有力紙に評価されたことを大変うれしく思います。信毎賞は、信毎創刊120周年を機に創設された文化、社会、産業、医療、スポーツなどの分野で著しい功績を挙げた県関係の個人・団体に贈られるものです。今年は第30回記念にあたり、信毎賞2名・1団体に加え特別賞1名も表彰されることになりました。

### 岸田政権による 大軍拡がすすめられる

ロシアによるウクライナ侵攻により、戦争が身近なものとなり、近隣諸国での軍事行動が懸念されるなど、私たちがとりまく平和環境が脅かされています。こうした状況のもと平和を守る活動をすすめてきた私たちの活動に対して、大本営地下壕のガイド活動や調査・研究活動の実績を加えて全国の戦争遺跡の保存活用の取り組みに関わってきたことなどが評価されたのだと思われまふ。

### 戦争の実相を語る 松代大本営地下壕

この機会に私たちの活動の様子を知っていただきたいと思ひ、その紹介をします。

### 改めて 松代大本営跡とは

そのものが、平和の大切さを子どもたちに直接語りかけているのではないのでしょうか。

### 平和祈念館の 多彩な調査研究活動

松代大本営は、アジア太平洋戦争の末期に、本土決戦に備えて戦争遂行に必要な国と軍の中枢部をそっくり移転させる方針のもと、長野市松代町の地下に大規模な地下壕を掘削した跡です。松代町象山には政府機関、NHK、中央電話局などを、舞鶴山には宮内省・大本営を、皆神山には皇族用の施設が入ることが計画されました。松代大本営に関連する施設も長野盆地周辺に広く配置が計画されました。これらの建設は極秘事項で、表向きは「松代倉庫工事」とされました。掘削工事は1944年11月に開始され、翌年8月の敗戦までの9ヶ月間続けられました。8月の終戦時には概ね完成されていたといひます。

米国タイム誌の表紙に岸田首相が取り上げられました。そこには「岸田首相は数十年間の平和主義を捨て、日本を真の軍事力を持った国にすることを望んでいる」という一文が添えられていました。外国のメディアからも我が国の安全保障戦略が大きく変化しようとしていることが指摘されているのです。

松代大本営地下壕跡には、毎年多くの市民が訪れています。昨年1年間の象山地下壕への入壕者数は約3万8千人(長野市調べ)でした。私たちNPO法人松代大本営平和祈念館のガイドによる案内はその3分の1に上ります。案内の大部分は小中高校生です。子どもたちは、壕の中でその規模の大きさに驚き、短期間にこれだけの壕を掘ったことを直接感じ取り、その労働の厳しさを実感するとともに、掘削の目的を知り、戦争の実相を学んでいます。見学した中学生の感想文の一部を紹介いたします。

「過去の間違いを振り返る大切さに改めて気づいた。僕たちが直接戦争を止めることはむずかしいかもしれないけど、少なくとも一人一人が戦争が間違っていると強く思うことで、平和への道につながると思った。たくさんの方々の苦しみを知ること大切だと思った。」戦争遺跡の存在

短期間にこのような規模の地下壕を建設するために、多くの人が動員されました。中でも、朝鮮半島からの労働者が中心で、その数は約7千人といわれています。当時の朝鮮半島は日本の植民地で、仕事を求めて日本にやってきた人々もいましたが、いわゆる「強制連行」によりむりやりに連れてこられた人々も多くいました。工事は過酷で、非人間的な生活も強いられたといひます。犠牲になった人々も多かったといひられています。

岸田内閣は、ロシアによるウクライナ侵略情勢を利用し、国民に戦争に対する不安を煽り、軍備増強が必要であるかのごとく主張し、昨年末には、「安保関連3文書」を閣議決定しました。「戦後の安全保障政策を大きく転換するものだ」と首相自身が述べているほどの重大な決定を、国会にもはからず、国民にも具体的に説明せずに、またもや「閣議決定」でことを進めています。

安保3文書には、「敵基地攻撃能力(反撃能力)」の保有が明記されています。これは、戦後我が国の内閣が掲げてきた専守防衛の原則さえも踏みこじる、明らかな憲法違反

「強制連行」によりむりやりに連れてこられた人々も多くいました。工事は過酷で、非人間的な生活も強いられたといひます。犠牲になった人々も多かったといひられています。

信濃毎日新聞の記者、井口賢太さんがこれらの資料を基